平成22年1月12日

各 位

上場会社名　株式会社成学社
代表者　代表取締役社長 太田　明弘
（コード番号　2179）
問合せ先責任者　取締役管理部長 藤田　正人
（TEL　06-6373-1579）

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年7月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

（金額の単位：百万円）

平成22年5月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正（平成21年6月1日～平成21年11月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,218	81	75	37	2,576.87
今回発表予想(B)	3,197	70	48	3	220.81
増減額(B-A)	△20	△11	△26	△33	
増減率(%)	△0.6	△14.0	△35.2	△91.4	
（ご参考）前期第2四半期実績（平成21年5月期第2四半期）	2,730	77	55	50	3,798.95

平成22年5月期通期連結業績予想数値の修正（平成21年6月1日～平成22年5月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,841	305	291	145	10,054.70
今回発表予想(B)	6,857	240	202	59	20.38
増減額(B-A)	15	△65	△88	△85	
増減率(%)	0.2	△21.5	△30.3	△59.2	
（ご参考）前期実績（平成21年5月期）	5,915	241	218	108	7,809.85

平成22年5月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正（平成21年6月1日～平成21年11月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,090	72	68	33	2,309.95
今回発表予想(B)	3,084	60	41	△1	△109.24
増減額(B-A)	△6	△12	△27	△34	
増減率(%)	△0.2	△16.7	△40.0	△104.7	
（ご参考）前期第2四半期実績（平成21年5月期第2四半期）	2,606	67	47	46	3,468.35

平成22年5月期通期個別業績予想数値の修正（平成21年6月1日～平成22年5月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,582	267	257	125	8,694.82
今回発表予想(B)	6,564	208	177	52	18.14
増減額(B-A)	△18	△58	△79	△72	
増減率(%)	△0.3	△21.8	△31.0	△58.0	
（ご参考）前期実績（平成21年5月期）	5,671	211	193	92	6,688.35

修正の理由

修正の理由

1．第2四半期連結累計期間の業績予想の修正について

［売上高］

教育関連事業においては、個別指導部門の塾生数が11月時点において計画比2％増となったことを主因として売上高は計画比47百万円上回る一方、クラス指導部門の塾生数が同5％減となったことを主因として売上高は計画比63百万円下回ることとなり、セグメント全体では売上高は計画比16百万円下回ることとなりました。不動産賃貸事業においては、本社ビルを購入したことに伴い賃貸スペースが増加したことから、売上高は計画比10百万円上回ることとなりました。飲食事業においては、景気低迷を要因とした巣ごもり消費が強まったことで来客数が減少したことを主因として売上高は計画比15百万円下回ることとなりました。

以上より、売上高は前回予想より20百万円下回ることとなりました。
［営業利益］
　営業利益につきましては、売上高減少の影響とともに、平成21年８月に本社ビルを購入し分散していた事務所を統合したことにより、移転関連費用として16百万円を計上したものの、主にクラス指導部門の人件費圧縮13百万円、飲食店舗の運営費圧縮12百万円の効果により、営業利益は前回予想より11百万円下回るに留まりました。
［経常利益］
　経常利益につきましては、営業利益の減少による影響とともに、本社ビルの購入に伴い支払手数料12百万円を計上したことにより、経常利益は前回予想より26百万円下回ることとなりました。
［四半期純利益］
　四半期純利益につきましては、経常利益の減少による影響とともに、保険解約に伴う特別利益を36百万円計上したものの、投資有価証券評価損27百万円など特別損失を46百万円計上したことにより、四半期純利益は前回予想より33百万円下回ることとなりました。

２．通期連結業績予想修正について
［売上高］
　教育関連事業においては、第２四半期までの趨勢をふまえ、個別指導部門の売上高は前回予想より119百万円増加、クラス指導部門の売上高は同165百万円減少を見込みます。また、平成21年12月より連結子会社となった株式会社個夢の売上高見込59百万円の寄与により、セグメント全体の売上高は14百万円の増加を見込みます。不動産賃貸事業においては、本社ビル購入に伴う賃貸スペースの増加により売上高は前回予想より25百万円の増加を見込みます。飲食事業においては、第２四半期までの趨勢をふまえ、売上高は前回予想より23百万円の減少を見込みます。
以上より、売上高は前回予想より15百万円上回る見込みであります。
［営業利益］
　営業利益につきましては、飲食店舗の運営費用圧縮17百万円を見込む一方、下期における新規教室ならびに移転教室の開校費用の増加額25百万円、本社ビルの管理費用ならびに減価償却等の負担額14百万円、株式会社個夢の運営費用59百万円を見込むことから、営業利益は前回予想より65百万円下回る見込であります。
［経常利益］
　経常利益につきましては、営業利益の減少による影響とともに、本社ビル購入に伴う借入金の支払利息負担額を通期で10百万円を見込むことから、経常利益は前回予想より88百万円下回る見込であります。
［当期純利益］
　当期純利益につきましては、経常利益の減少による影響とともに、下期において教室閉鎖ならびに移転に伴う原状回復費用等28百万円を特別損失として見込むことから、当期純利益は前回予想より85百万円下回る見込であります。

３．個別業績予想の修正について
　個別の業績予想の修正理由につきましては、上記連結の業績予想の修正理由と同様の内容であります。

※当社は、平成21年12月１日を効力発生日として普通株式１株につき200株の割合で株式の分割を行っております。当該株式分割が期首に行われたと仮定して１株当たり当期純利益を算定しております。

■上記の業績予想は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以　上